

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

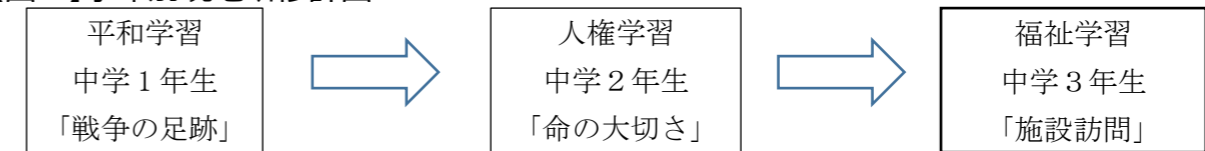
※事務局記入欄

【様式 2】

No. C-21

部門名: 地域とともにある学校実践部門	エントリー名: 愛媛県伊方町立瀬戸中学校 平家良則 平成 30 年度第 1 回副校長・教頭等研修
活動名: ふるさとで学ぼう！ ふるさとを学ぶ体験活動の充実	
解決すべき課題: 過疎化が進み小規模となった本校では、限られた地域で、固定化された人間関係の中での学校生活を送っている。幼少期から変化があまりない人間関係の中で育ち、互いに自分の意見や考えを積極的に述べる経験が豊富であるとは言い難い。 1 限られた地域の中でも計画的に充実した体験を行うことで、学習の成果を発揮する場を設定したい。 2 よりよく人と関わり、望ましい人間関係を構築していこうとする活動の充実を図る必要がある。 地域を活性化させる視点として、愛媛大学教授露口健司氏が提唱する「もの・ひと・こと」の社会資本の積極的活用を推進していく必要がある。	
目標・方針: 課題解決のために、3 年サイクルで計画的に地域の歴史や文化財を学んだり、地域で活動している方を招いて専門的な見地から学習に取り組んだりすることを通して、ふるさとのよさを再発見する。また、学年を越えた活動や年齢や環境の異なる人たちとの交流を通して、「人の役に立ちたい。」とか「自分には良いところがある。」と思える自尊感情を高めていく。	
活動内容: 1 現地研修による地域の文化的リソースを活用したふるさと学習の充実【図 1・写真 1】 2 地域の特産物を生かした「IMO プロジェクト」の実施【写真 2】 3 小中連携の学校行事や交流活動の推進【写真 3】	
活動の成果: 1 生徒アンケートの自己肯定感の項目が昨年度に比べて 7 ポイント上昇した【グラフ 1】。 2 地域に残る人権の歴史や戦争の足跡の学習を通して、地域の歴史的文化的文化財を教材として活用することができた。 →生徒の声：「昔の人も命を大切にしていたことが分かった。」「戦争の悲惨さを学ぶことができた。」等 3 ふるさとの特産物「瀬戸の金太郎芋」を利用して、栽培から商品開発、販売までを行うことで、学年の役割や責任が明確になった。また、地域の方との交流を深めることができた。 →教員の声：「3 年生が計画を立て、2 年生が指導し、1 年生が栽培を行うという各学年をつなぐ手順が確立してきた。」「学年に応じて、段階的に指導する手順ができてきている。」等 4 春の小中合同遠足が夏休みの合同学習に生かされている。生徒会・児童会のリーダー研修会で運動会や文化祭の小中合同種目を決めて実施することで、中学生がリーダーシップをとるとともに地域の児童との縦のつながりができてきた。 →生徒の声：「今日の遠足では小学 1 年生のことを一番に考えて行動することができた。」「勉強を教えてもらってありがとうと言われ、うれしかった。」「来年はリーダーになるのもっと頑張りたい。」等	
アピールポイント (アイデアや工夫) 1 3 年間を見通した体験活動を実施できる。 2 小中合同の行事を輪番で担当することで、担当者だけでなく、地域の小中学校全教職員で組織的に取り組むことができ、教職員の小中連携を深めることができる。 3 中 1 ギャップの解消につながっている。 4 地元で開催されるマラソン大会に生徒がスタッフとして参加し、大会運営を手伝うとともに、IMO プロジェクトで製造した商品の販売も行い、県内各地から参加した選手と交流が図られている。生徒の達成感も高まり、翌年の活動の意欲化につながっている。	

【図 1】学年別現地研修計画



【写真 1】



(戦争慰霊塔の見学)



(人権フィールドワーク)



(介護施設訪問)

【写真 2】



(芋苗の植え付け)



(地元イベントへの出店)

【写真 3】

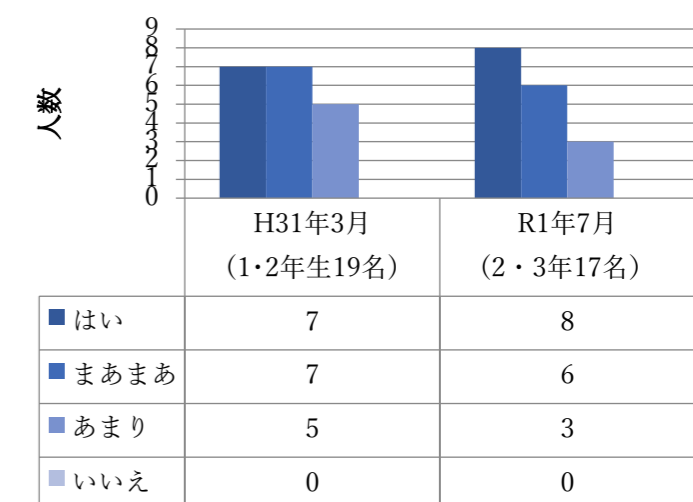


(小中合同遠足)



(夏休みの合同学習会)

【グラフ 1】



自分には良いところがあるか